

生産性革命のための破壊的なイノベーション

平成 29 年 11 月 17 日
松山大臣提出資料



我が国のおかれた状況と今後の対応

イノベーション創出を「生産性革命」の中核に据えるイニシアティブの必要性

■急展開する破壊的イノベーション

- ・ これまでとの比較において基礎研究から産業実装、社会変革、軍事応用技術まで驚異的短期間で発現される時代に。しかし舞台は米中等、日本以外。（例：CRISPR/Cas、量子コンピュータ）

■日本の研究力の相対的劣化（論文/大学評価）

- ・ Top10%論文数シェア：世界4位（2003-05年平均）⇒ 世界9位（2013-15年平均）
- ・ イノベーション能力：世界1位（2012年）⇒ 世界21位（2017年）
- ・ 大学ランキング（東大）：世界26位（2011年）⇒ 世界46位（2017年）
- ・ 国際共著論文：米国の1/6、中国の1/2（2013-2015年平均）

5つのイニシアティブ

I. 「Society 5.0」 基盤構築の加速	○生産性向上に寄与する技術基盤の構築（SIP/PRISMの活用） ○分散する異分野データを連結するデータ連携基盤の整備
II. 若手研究者活性化 のための環境整備	○若手対象研究費・人件費拡大/ 海外博士号取得留学支援 ○シニア研究者の適切な処遇（外部資金獲得環境・年棒制・役職定年制等）
III. 社会と協業する 次世代の大学の創出	○経営と教学の機能分担/ 大学ガバナンスコードの策定 ○産業界・海外大学等との人の移動の活性化/ 業績評価等の待遇への反映 ○組織対組織の産学連携推進/ 土地等の資産の活用
IV. 官民による未来投資への 転換	○政府科学技術予算の抜本的強化・効率化 ○非科学技術関係予算のイノベーション促進型への転換 ○民間投資の促進（大学・国研発ベンチャーの支援拡充等）
V. イノベーション政策の統合化	○エビデンスベースの政策形成 ○イノベーション施策の統合・一本化